

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故事例
2. 体験した事例の名称	C型肝炎感染の疑い (HCV 血液汚染事故)
3. 体験した事例の中心的要素	本件は、救急出動時、傷病者を観察しようと傷病者が押させていたタオルを退けた際、血流を浴びたものである。その中心的因素は、傷病者から動脈出血の情報を聞かなかつたことで危険を予見できなかつたことにあると思います。
4. 体験した事例の原因・理由	本件の原因は、危険情報を把握、予見できなかつた、今までにそのような事案がなく経験がなかつたこと、マスク、ゴーグル等装着していなかつたことが原因になると思います。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 13年 9月 30日 午前 9時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：東名阪自動車道下り線の交通事故現場
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	その他：C型肝炎感染の疑い
7. 事例体験時の活動	救急、 [現場活動初期、]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	応急処置、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[26]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[3] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	救急隊が	東名阪自動車道、普通自動車単独事故に出動。	
経過 2	当事者 A が	現場到着後、傷病者 1 名を救急車内へ収容。	
経過 3	当事者 A が	傷病者を観察しようとした際、顔面に血流を浴びる。	
経過 4	当事者 A が	生理食塩水にて口腔内及び顔面の清拭を行った。	
経過 5	救急隊長が	搬送先病院に血流を浴びた事情を説明し、 傷病者の血液検査の結果を報告してもらうよう依頼した。	
経過 6	傷病者の	血液検査の結果、HCV-A b が (+) であった。	
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合

：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。個人装備が不適切だった。たまたま、負傷事故になった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 はい
 - ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 いいえ
 - ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があつた。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかつた。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

救急出動時、ディスポマスク及びゴーグル等装着するようになった。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について